

させぼの100年を探れ!

させぼの100年年表

- ※市になる前
- 一八九八(明治31)年 九州鉄道佐世保線が開通
- 佐世保駅が開業
- 一九〇二(明治35)年 佐世保が村から市になる
- 一九〇五(明治38)年 電話が開通する
- 一九〇六(明治39)年 初めて電灯がともる
- 一九〇八(明治41)年 水道管での給水始まる
- 一九一〇(大正元)年 ガスの供給始まる
- 一九一三(大正2)年 初めて自動車が行く
- 一九一四(大正3)年 第一次世界大戦始まる
- 一九二〇(大正9)年 佐世保軽便鉄道の相浦〜柚木が開通
- 一九二七(昭和2)年 日宇村と佐世保を編入市営バスが走り始める
- 一九三八(昭和13)年 相浦町を編入
- 一九三九(昭和14)年 第二次世界大戦始まる
- 一九四一(昭和16)年 太平洋戦争始まる
- 一九四二(昭和17)年 早岐町、大野町、中里村、皆瀬村を編入
- 一九四五(昭和20)年 佐世保空襲
- 佐世保鎮守府が解体
- 連合軍が佐世保に進駐する

こんにちは!ぼくの
 名前は佐世保市郎。
 佐世保市がことしで100
 歳になったのは、みんな
 知ってるよね?まちの
 様子を中心に、佐世保の
 100年の歴史をまとめて
 みたよ。いっしょに見
 てみよう!



めいじ 明治35年
 ↓
 しょうわ 昭和5年

明治18年ごろの佐世保は、人口約四千人の小さな村でした。ところが明治19年、佐世保港が当時の日本海軍から軍港に指定され、佐世保鎮守府が置かれてからは、人口が急激に増え、明治32年には4万人を超えました。

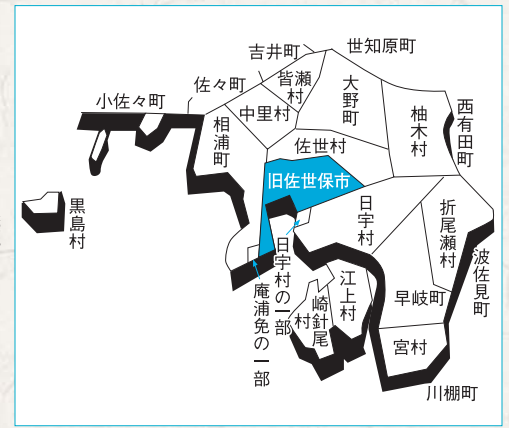
市になる少し前までは、小さか村やったとたい

昭和6年
 ↓
 昭和24年

今の国道35号ば、むかしは「弥生座(やよいざ)通り」って呼びよったね

昭和のはじめごろ、市内の交通量は、今の四ヶ町通りに集中していた。交通量の多さは県内第1位でした。けれども、道幅が約8メートルと狭い上に、電柱や街灯が立ち並び、バスやタクシー、自転車や人力車などがひしめき合っていて、人が歩くには決して安全な場所ではありませんでした。

そのため、道幅を広げる計画を立てましたが、当時そこで生活していた人たちの立ち退き料など、多額のお金が必要になりました。そこで、この道に平行な弥生座通り(今の国道35号)を広げようと、昭和9年に工事を始めたのです。まず、戸尾町から元町の鎮守府構門までの約一・三キロの工事を、約6年かけて完成させました。次に戸尾町から日宇の西電橋までの工事に掛かりましたが、途中で太平洋戦争が始まり、昭和20年の終戦直前によくやくすべての工事が終わり、道幅20メートルのコンクリート道路が出来上がったのです。



村はみるみる発展し、明治35年に、北部の「佐世保」と、それ以外の「佐世保市」に生まれ変わり、人口約4万6千人(九州では5番目)の佐世保市が誕生しました。昭和に入って佐世保と日宇村を合併した後、相浦町、早岐町、大野町、皆瀬村、中里村との合併を終えた昭和17年には、人口は27万近くに膨れ上がりました。その後、残りの村も合併し、昭和33年には、ほぼ現在の形が出来上がりました。

電話、電気、水道の使えることになって、生活のずいぶん変わったとよ

明治後期までは、市内約650カ所の井戸から水をくみ、足りない分は川の水を使っていたので、伝染病の原因になっていました。



昭和30年代の戸尾町交差点付近



拡張(かくちょう)工事前の三浦町(戸尾町交差点付近)

しかし、市が自力で貯水池をつくるだけのお金がなかったため、海軍の助けを借りながら、明治41年、ようやく水道管を敷くことができました。市民は、蛇口をひねれば水が出る喜びを、このとき初めて味わったそうです。

この時期になると、市が発展するためには、佐世保市より北側にある北松地方との行き来が必要になってきました。そこで、大正9年、小型の列車が走る「軽便鉄道」が、まず相浦〜柚木に開通し、石炭の採掘がますます盛んになりました。また、その年には西肥バスが走り始め、鉄道と同じように、重要な交通手段になったのです。



軽便鉄道時代の上佐世保駅(現在の俵町)。右手は佐世保駅との間を走っていた連絡バス

戦争中の生活は、そりゃあ大変やったとよ

米やみそなどの食品をはじめ、生活に必要な物のほとんどは配給制になり、これまで野菜として食べいていたイモが、主食として配られるようになりました。また、銅や金などの金属製品は、戦争のために次々と回収されました。男性は戦争に行き、残された女性は、人手不足の農村に手伝いに出掛けたり、軍隊に必要な物を作る工場で働いたりしながら、不安な生活を送っていました。昭和20年6月28日、夜11時58分、ついに佐世保は空襲を受け、中心部はまたたく間に火の海になったのです。灰になった家がおよそ一万二千戸、亡くなった人は千二百七十七人のほりました(佐世保空襲犠牲者遺族会調べ)。



焼け野原になった市街地〜現在の国道35号。松浦町付近〜(「占領軍が写した終戦直後の佐世保」より)

むかし おし 昔の佐世保を教えてください

～市民リポーター・石田景子さん・典士君親子がインタビュー～

相生町周辺の橋



石田景子さん・典士君親子（園田町在住）
典士君は久保小学校4年生。趣味は囲碁

景子さん 「この子の世代にどんなふうになってほしいとお思いますか」
山本さん 「世界の人たちと仲良くして、戦争のない時代をつくってほしいですよ。何になりたい？」
典士君 「将来の夢は、宇宙飛行士です」
山本さん 「それはいいですね。心も体も健康であってほしいですね」
典士君 「頑張ります！」

■佐世保川周辺のようす
典士君 「佐世保川周辺の変化はどうでしたか」
山本さん 「佐世保川は、昔はもつときれいでした。私の家は相生町の、今のエレナの所で、たが、父が子どものころは、あの辺でタライを舟にして遊んでたそうですよ。明治時代は、今の総合病院の対岸の辺りには湊町市場があって、海軍橋の角から、向こうの共済会橋の辺りまで、ずらーっと市場がありました。そこにお魚とかお野菜とかを舟に積んできて、揚げてましたよ」

■自宅の2階からの眺め
山本さん 「戦争中は、天満橋、中之橋、浜田公園、国際通り、佐世保橋（海軍橋）、市立総合病院」と言われてたのに。その時代



梅田町在住のタエさん（梅田町在住）
「佐世保女性史の会」で、佐世保で生きる女性を長年にわたり取材

相生橋、行幸橋、中之橋、海軍橋、橋という橋はもう、人間で真っ黒でしたよ。海軍工廠に行き帰りの、黒っぽい作業服を着た男性でした。

■佐世保空襲の記憶
景子さん 「矢岳町の辺りに病気がはやって、あの辺りを焼いたときの話を基にした恋愛小説が、図書館にあったんですけど、読まれたことはありますか」
山本さん 「炎の記録」？」
景子さん 「はい、そうです」
山本さん 「持ってますよ。あの中に佐世保空襲の場面が出てきますけど、あれは私たちの姿。行幸橋が燃えていて、何人かが川の中に入ってたというところがありますけど、それは私です」
景子さん 「えっ、そうなんですか」
山本さん 「家が燃え出したもんですから、父と主人と逃げようと思って戸を開けたんですよ。そしたらバラバラと、雨のよう

に焼夷弾が落ちてくるんです」
典士君 「こないだ学校で『火の雨』っていうスライドを見て、そのときにも焼夷弾が落ちたって山本さん」
山本さん 「そう。怖くてね、前に進めないんです。パラパラ落ちてくるのが体に当たりそう。どこかに隠れようとしてたら、父が家のまんな前の溝ふたを開けて入ったんです。私も7カ月の長男を抱っこして、防空すきををかぶってしゃがんでいました。ちようど行幸橋のそばにしゃがんでいたら、いいにおいがしてくるんですよ。お煮付けのにおい。そしたらすくそばの丸善醤油のお醤油がグラグラたぎってるんです。お醤油作ってたたるに、ボンボン焼夷弾が落ちてきて。そういうことがありましたよ」

■これからの時代を担う子どもたちへのぞむこと
景子さん 「この子の世代にどんなふうになってほしいとお思いますか」
山本さん 「世界の人たちと仲良くして、戦争のない時代をつくってほしいですよ。何になりたい？」
典士君 「将来の夢は、宇宙飛行士です」
山本さん 「それはいいですね。心も体も健康であってほしいですね」
典士君 「頑張ります！」

- 一九五〇（昭和25）年 旧軍港市転換法の住民投票同法が公布・施行
- 朝鮮戦争が起る
- 一九五二（昭和27）年 日米行政協定によって、米海軍基地に指定される
- 一九五四（昭和29）年 柚木村、黒島村を編入
- 一九五五（昭和30）年 九十九島が西海国立公園に指定される
- 折尾瀬村、江上村、崎針尾村を編入
- 一九五八（昭和33）年 宮村を編入
- 一九六六（昭和41）年 四ヶ町アーケードが完成
- 一九七七（昭和52）年 三ヶ町アーケードが完成
- 一九九二（平成4）年 ハウステンボスがオープン
- 一九九四（平成6）年 西海パールリゾートがオープン
- 二〇〇一（平成13）年 アルカスSASEBOオープン
- 二〇〇二（平成14）年 佐世保市が百歳に



朝鮮戦争時の佐世保市街

昭和25年
↓
昭和35年

軍港として発展してきた佐世保から海軍がなくなり、新しく商港となったものの、なかなか実績は上がりません。その理由の一つは、港の重要な部分を占領軍が使っていたため、自由に使えなかったことが挙げられました。

そこで、市内にある旧海軍の施設を国から譲り受け、佐世保市の発展に役立てようと、住民投票を経て、「旧軍港市転換法」を成立させました。

旧海軍の土地や建物などが、市民の学校や公園などに使われるようになった矢先、朝鮮戦争が起きたのです。商港を目指していた佐世保は、戦後わずか5年で軍港に逆戻りし、港の主な施設は再び、米軍に使われるようになりました。



昭和30年代と現在の本島町・交差点

連合軍の基地となった佐世保には将兵があふれ、時計やカメラ、土産物などが飛ぶように売られました。繁華街のネオンは華やかになり、国道35号を広げる工事も進んで、佐世保は活気あふれる近代的な街へ生まれ変わりました。

そして昭和27年、日本は6年8カ月間の占領から解放され、独立国としてスタートしましたが、佐世保は日米行政協定によって、米海軍基地に指定されたのです。



現在の JR 佐世保駅

■最近の駅
周辺のほとんど変わりよっね

現在でも日本一の長さと言われる四ヶ町・三ヶ町アーケードの完成で、繁華街は一新しました。毎年1月2日の初売りのほか、「きらきらフェスティバル」も、今では佐世保の冬の風物詩として定着しています。

そのほか、ハウステンボスや西海パールリゾートも誕生し、「YOSAKOIさせぼ祭り」の時期には、全国各地からの踊り子たちで、佐世保の街は熱気に包まれます。また、再開発が進むJR佐世保駅周辺では、鉄道が高架になるなど、目覚ましい発展を遂げています。

市になって一〇〇年を迎えたことし、佐世保は未来への新たな一歩を踏み出すとしています。

昭和36年
↓
平成14年

が誕生しました。このため、市内の観光施設はますます整備され、観光客も増えて、観光都市として今日まで発展してきたのです。